



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2014～2015年度 RI会長 ゲイリー C. K. ホアン
RIテーマ ロータリーに輝きを

クラブテーマ「感謝の心で出席しよう」会長 矢岸貞夫

副会長 鈴木政則 幹事 小林 勝

第1195回 例会
2014.8. 22(金)晴

司会:岡 良森君 指揮:山口辰哉君
ロータリーソング「日も風も星も」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

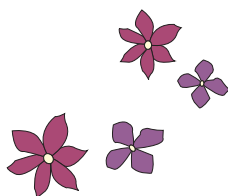
会長挨拶

会長 矢岸貞夫君

皆さん今日は、先週はどこの企業も盆休みで、私も5日間ほど休みを取らせていただきました。好きなゴルフを友人から誘われて1回行い、例会も無く会長挨拶も考えなくて良く、毎日自宅でテレビを見ながらのんびりさせてもらいました。

休み明け「さあ、仕事が始まる」と朝起きたら、広島市の山際の住宅街を土石流が襲い多くの住民が亡くなり行方不明になったと知りました。今回の土砂災害は、複数の専門家によると山の表面の土壌だけが崩れる「表層雪崩」が発生した可能性がある指摘しています。土壌の下の岩盤まで一緒に崩れる「深層雪崩」に比べて規模は小さいが局地的な豪雨により狭い範囲で表層雪崩が多発したとのこと。被害が大きかった地域は、花こう岩が風化した「まさ土」という地質で軟らかく宅地造成に適しているが水を含むと崩れやすいそうです。私も知人が広島に住んでいまして行った事がありますが、風光明媚などとも良いところです。中国自動車道が山際に開通し、利便性が良い分、山の麓に沿って宅地造成が進み、今回のような土砂災害の起きる危険性はありうるとおもいます。

土砂災害の場合、特に斜面近くの住宅では、一階が被害にあうことが多いので、2階に上って崖と反対側の部屋を使う等、出来るだけ安全な場所を選ぶ事や、川のそばや山の麓に住む人は、警報や注意報が出た場合は、「もしかしたら」という危機感をもち情報収集や避難準備が必要です。「自分の命は自分で守る」が基本と新聞にも書かれていました。現場では、救助活動中の消防隊員が土砂崩れに巻き込まれ亡くなりました、何とも痛ましい。一人でも多く助け出してと願わずにはられません。



出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	27/32	84.38%	30/32	93.75%
今回	32/34	94.11%	会員総数	34名

欠席者 小島君、杉山(隆)君
あなたが見えなくて残念でした。

おめでとう

会員誕生日 9月4日 兵藤弘昭君
入会記念日 8月23日 仲原実圭君



スマイルボックス

澤田 稔君:9月9日に私共日本中古車販売連合会東京本部にタイ全土の中古車販売協会の方々約20名が研修で来場しますので、その時にせせらぎ三島RCの輝かしい国際奉仕事業のタイの恵まれな子供たちへの自転車贈呈をご披露させていただきます。皆様方の努力の結果、日・タイ友好と親善に寄与し、タイ全土にせせらぎ三島RCの功績が認知され鳴り響くことでしょう!

久保栄子君:8月31日家族会不参加申し訳ございません。

幹事報告

幹事 小林 勝君

- 来週29日の例会は、31日(日)の家族会に変更です。
- 例会変更
三島西RC 9月4日(木) 米山記念館
9月11日(木) 松韻にて夜間例会

卓話

石井和郎君

「四文字の愛」

小出将善さん

「あけくれ」という言葉を広辞苑でひいてみました。夜明けと夕暮れ、朝夕、日々、明けても暮れても、毎日、とありました。

妻の三回忌法要を済ませてまだ間もなく、地に足のつかない不安定な暮らしに、明け暮れています。

妻を失って初めて気が付きました。一番大切な宝ものとは、形のあるものでは決していない。私の宝ものは、私の心の中で穏やかに生きている妻の愛です。そんな宝ものを残して逝った妻に、明けても暮れても、感謝しています。

最近、片付けや整理に関する出版物をよく目にします。しかし私は、妻の遺品整理に手がつかないのです。幾たびも挑戦しました。見るもの、触れるもの一つ一つに在り日が浮かび、作業を妨げます。それを乗り越えた時、心の整理もできるのでしょうか。

「あけくれ」という、たった四文字の言葉の情愛と美に背中を押され、どうやら半歩、前に出られたようです。



今日の料理



ROTARY NEWS

「5歳未満の子供たちの5人に一人が汚染された水を飲んで死亡している」。これが世界の現実です。しかも飲み水を汲みに行くために、毎年世界で約400億時間が費やされ、その作業は主に女性と子供たちが担っています。

アフリカのガーナでは、人口の20パーセントに当たる約500万人が、汚染された水を使っていると推定され、その結果、多くの人びとがさまざまな病気の危険にさらされています。

ロータリー会員、マーティー・ハタラさん(米国アラバマ州、ボアズ・ロータリークラブ)は、2010年に初めてガーナを訪れ、孤児院でボランティア活動に参加した時、地域の人びとがきれいな水を求めて苦勞している様子を目の当たりにしました。「場合によっては、11キロも歩いて水を汲みに行かなければならなかった」と振り返ります。ハタラさんのこの経験について知り、ボアズ・ロータリークラブと、同じ州にあるアラバスターペラム・ロータリークラブの会員が立ち上がりました。ロータリー会員たちはガーナのボルタ地域の村、アフラオで、飲み水用の井戸を掘り、村人が長い時間をかけずに、近くできれいな水を汲めるようにしたのです。これで、村の母親と子供たちが水汲みに苦勞する必要がなくなりました。

ハタラさんはその後、地元の人に別の地域に案内してもらいました。アフラオと違い、その地域には地表に水源がありました。ロータリー会員たちは、その水源から9つの村まで送水管を敷き、市場、寄宿舎、学校、養鶏場など主要な施設で水が使えるようにしました。ハタラさんはその際、水道と下水管理の専門家、アラバスターペラム・クラブのクレイグ・ソレンセンさんの力を借り、地元の人びとにもこのプロジェクトの進行状態を常に知らせ、実際に参加してもらいました。当初6つの村まで敷くはずだった送水管を9つの村に延長できたのも、地域のリーダーの紹介で、地元の労働力を確保できたからです。このプロジェクトは去る3月に完了しました。

このプロジェクトに参加したクラブの会員たちは、ほかの地域でも水源を探し、もっと多くの人びとの日常を改善したいと考えています。

PHOTO GALLERY

